

教育者・研究者・舞台人・日本文化のよき理解者としての ジョンソン先生の思い出

和田 葉子

来日されて今年で丁度 35 年、関西大学で教鞭をとられてから 34 年が経つ。着任されて間もないジョンソン先生には大学院で演劇について教えていただいた。青いジーンズのよく似合う先生だった。当時、日本では、まだ大学の教員がジーパン姿で授業をするなど考えられなかった時代だった。アメリカではインディアナ大学とウェイン州立大学でスピーチと演劇を専攻され、学生時代には、劇団員がいくつかの決まった演目を交互に上演するいわゆる「レパトリー劇場」の舞台に立ち、俳優としても多くの経験を積んだ。毎週、異なる作品に出演しなければならぬこともあり、セリフを覚えるのがたいへんだったとか。その経歴のためか、私の受講した演劇の授業中に、突然、サンダルを脱ぐや、机の上にひらりと飛び乗り、実際に演じて見せてくれたことがあったのを覚えている。アメリカではラジオにもレギュラー出演されており、番組で文学作品についてわかりやすく解説する DJ もされていた。

来日後も舞台は続けておられ、私も 1 度、観に行かせていただいたことがある。その時の出し物は、1969 年ノーベル文学賞を受賞したサミュエル・ベケット（1906 年アイルランドに生まれ、1989 年パリで亡くなった）の戯曲『クラブの最後のテープ』だった。不条理の、しかも一人芝居の作品であり、昔録音した自分の声をテープで聴く老人、クラブという難しい役を見事に好演された。また、能楽にも大いに関心を示され、謡をご自身でなさるだけでなく、能の演出技術の研究もされた。

現在の国際部の前身ともいえる国際交流センターでは、所長代理として 10 年以上、国際交流事業の推進に大いに貢献された。特に、関西大学が複数の海外の大学と協定を結び、語学研修プログラムや研究者交流のシステムを作り上げるまでの、ジョンソン所長代理のご苦勞はたいへんなものであった。私は、それを何年にもわたり、一人の国際交流委員としてそばで見えたのでよく知っている。しかし、国際交流センターでは、山と積まれた仕事をいつも笑顔で引き受け、こなしておられた。

ご専門は、演劇とスピーチの他、幕末・明治期に活躍したユニークな絵師、河鍋暁斎（かわなべ・きょうさい）（1831 年～1889 年）について造詣が深く、業績には、ヴィクトリア朝の『イソップ物語』と明治時代の『通俗伊蘇普物語』の比較研究などがある。また、東京美術学校

(現在の東京藝術大学) の設立に大きく尽力した美術史家、岡倉天心(1863年～1913年)とアメリカ人の東洋美術研究家、アーネスト・フェノロサ(1853年～1908年)に関しての研究もされており、現在、出版に向けて仕事を進めておられるとのことである。これまでの研究成果は出版物に加え、ロンドンの大英図書館での記念講演やロンドン大学東洋アフリカ学院での招待講演等で広く国際的に発表されている。

長い間、私の先生として、そして、やがて同僚として一緒にさせていただくことができたことをたいへん光栄に思っている。ウィットに富み、困難な時期でも常に微笑を絶やさなかったジョンソン先生のご健康を心より祈っている。まもなくキャンパスでお会いできなくなることは寂しいけれど、これからも、ご活躍され、日本の優れた文化や芸術家を国内外に知らしめる良いお仕事を精力的に続けられると確信している。

ジョンソン先生、私達、本当にお世話になりました。有難うございました。

2010年 クリスマス

ゴードン・スコット・ジョンソン教授略歴及び主要研究業績

Professor Gordon Scott Johnson, Ph.D.

1941, March 15 Born in Peoria, Illinois, USA

EDUCATION

- 1959, June 6 Graduated from Decatur High School, Decatur, Alabama
1963, June 5 AB degree, Indiana University, Bloomington (Biology)
1967, Sept. 19 MA degree, Indiana University (Speech and Theater)
1973, Dec. 13 PhD, Wayne State University, Detroit, Michigan (Speech and Theater)

PROFESSIONAL EXPERIENCE

- 1965, Sept.~1970, June Wayne State University (part-time, presentation)
1970, Sept~1971, June Indiana, University (part-time, presentation)
1971, Sept.~1973, May University of Alberta, Edmonton, Canada (visiting professor, theater history, drama theory, presentation)
1974, Jan~June Rutgers University, Newark, New Jersey (part-time, presentation)
1974, July~1975, Jan. George Washington University, Washington, DC (part-time, presentation)
1975, April~1976, March Otomon Gakuin Daigaku, Takatsuki City (part-time, oral communication)
1976, April~1980, March Kansai University, Suita City (associate professor, English literature)
1980, April~2000, March Kansai University, Suita City (professor, English literature)
1993, April~2007, March Vice-director, Kansai University International Affairs Center
2000, April~2009, March Kansai University, Suita City (professor, English and presentation)
2009, April Kansai University, Suita City (emeritus professor, English and presentation)

ACTIVITIES

- 1980, April~ current Fenollosa Society, Japan
1995, April~ current International Ukiyo-e Society, Japan
1982, Sept.~current Society for Japanese Arts, the Netherlands

《略 歴》

1941年3月15日 アメリカ合衆国イリノイ州ペオリアに生まれる

学 歴

1954年9月5日 アラバマ州ディケーター高等学校入学
1959年6月6日 アラバマ州ディケーター高等学校卒業
1959年9月1日 インディアナ大学ブルーミントン校入学
1963年6月30日 インディアナ大学ブルーミントン校卒業
1963年9月1日 インディアナ大学大学院修士課程入学
1965年6月30日 インディアナ大学大学院修士課程修了(修士)
1965年9月1日 ミシガン州立ウェイン大学大学院博士課程入学
1973年12月13日 ミシガン州立ウェイン大学大学院博士課程修了(博士)

職 歴

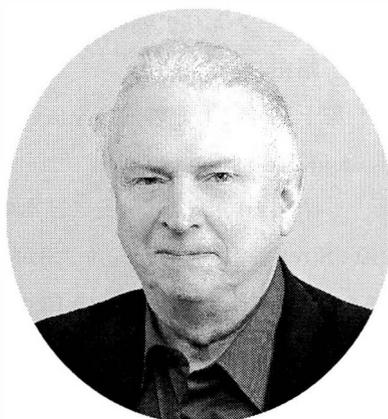
1965年9月～1970年6月 ミシガン州立ウェイン大学非常勤講師
1970年9月～1971年6月 インディアナ大学非常勤講師
1971年9月～1973年5月 アルバータ大学客員教授
1974年1月～1974年6月 ラトジャース大学非常勤講師
1974年7月～1975年1月 ジョージ・ワシントン大学非常勤講師
1975年4月～1976年3月 追手門学院大学非常勤講師
1976年4月～1980年3月 関西大学助教授(文学部)
1980年4月～2000年3月 関西大学教授(文学部)
1993年4月～2007年3月 関西大学国際交流センター所長代理
2000年4月～2009年3月 関西大学教授(外国語教育研究機構)
2009年4月～2011年3月 関西大学特別契約教授(外国語学部)
2009年4月 関西大学名誉教授

所属学会

1980年4月～現在 日本フェノロサ学会会員
1995年4月～現在 国際浮世絵学会会員
1982年9月～現在 日本美術国際協会



before Kandai



after Kandai

著 書

A Guide to Ezra Pound and Ernest Fenollosa's "Classic Noh Theatre"

共著 平成 6 年

(National Poetry Foundation) この本はフェノロサと平田喜一による能の原稿の訳文の転写で著者計 15 名 謡曲錦木 (pp. 87-130) 杜若 (pp. 239-261) を担当

学術論文

"The Fenollosa-Hirata Manuscripts on Noh, and How Ezra Pound Edited Them"

単著 昭和 53 年 国際学会議紀要第二十三号 pp. 49-59

"The 'Tools' of the Ideogramic Method"

単著 昭和 56 年 11 月 Paideuma, Vol. 10, Number 3 pp. 525-532.

"Robert Morrison's Dictionary of the Chinese Language: Regarding the Genesis of Fenollosa and Pound's 'Ideogramic Method'"

単著 昭和 56 年 11 月

"Collection of Essays in Commemoration of the 30th Anniversary of the Institute of Oriental and Occidental Studies" 関西大学 pp. 35-55.

"Kyosai Gadan" ("The Life in Art of Kyosai Kawanabe Toiku") [序文と注釈を含んだ英訳版を担当]

単著 昭和 58 年 河鍋暁斎記念美術館 (埼玉県蕨市) pp. 1-43

"The Illustrations for a Victorian Aesop and a Meiji Isoppu"

単著 昭和 58 年 関西大学東西学術研究所紀要第 16 輯 pp. 51-99.

“寓話の挿絵、ヴィクトリア朝の「イソップ物語」と明治時代の「通俗伊蘇普物語」

単著 昭和58年

暁斎 第十五号 (上記の内容を広げてそれを訳したものである) pp. 3-40

“Fenollosa and the Staging of Noh”

単著 昭和60年 Lotus (日本フェノロサ学会) 第5号 pp. 4-9.

“The Artists Stretch Their Legs: the “Sketch-tour” books and Other Developments in Japanese Graphic-Arts of the Early Twentieth Century”

単著 昭和61年3月 関西大学東西学術研究所紀要 第19輯 pp. 21-39.

“Kanao Tanejiro and the development of Meiji-Taisho “sketch-tour” books”

単著 平成元年3月 関西大学経済政治研究所「研究双書」第67冊 pp. 130-155.

“Sketch-tour books and prints of the early twentieth century”

単著 平成2年1月 Andon Vol. 10, No. 37 pp. 3-33.

“The ‘Sketch-Tour’ Books and Prints and the Role of Osaka Publisher KANAOKANE Tanejiro”

単著 平成3年3月 関西大学経済政治研究所「研究双書」第77冊 pp. 86-127.

“The Japanology Class and the Audio-Visual Center”

単著 平成3年3月 関西大学視聴覚教育第十四号 pp. 53-64.

“From Aesop to Isoppu: the Making of a Book”

単著 平成6年 河鍋暁斎画集 Vol. 2 (東京) pp.198-203.

“Weddings and Words: some notes on language in recent Australian plays and films”

単著 平成11年12月 関西大学英文論集第39号 pp. 93-124.

“Weddings and Words: some notes on language in recent Australian plays and films, Part Two”

単著 平成13年12月 関西大学英文論集第41号 pp. 89-140.

“総合的意匠「トータルデザイン」を例証する俳諧摺物”(伊藤義隆訳)

単著 平成14年6月 江戸文学(ぺりかん社)第25号 pp. 159-165.

“佐藤保大の摺物”(小林ふみ子訳)

単著 平成17年3月～4月 文学(岩波書店) pp. 28-38.

“Surimono and Broadshets: Graphic art with poems in Japan and America”

単著 平成17年12月 関西大学英文学論集 pp. 45-63.

“The Staging of a Kabuki version of Hamlet”(東京国立劇場の美術監督であるオリタコウジの語録を私が翻訳し序章と注釈をつけました)

単著 平成18年8月

“The Young Scholar Dick Lane and One of His First Loves”

平成18年9月 Orientations, Vol. 37, No. 6, pp. 99-104.

監修・項目執筆

三省堂新コンサイス和英辞書

共著 昭和60年 英語編集のアドバイザーとして従事し、かつ定義の正誤を確認

English for the Global Age with CNN

共著 平成17年 朝日プレス（編集アドバイザーおよび正誤確認）

編集協力

Basic English for Information Science

平成16年 講談社サイエンティフィック（正誤確認）

口頭発表

“Shasei ryoko and the “sketch tour” books of the early 20th century”

単著 昭和63年9月

大英図書館 “Printing, publishing, and the art of the Japanese book”